

詩合

治系二年八月

唐書

卷之三

心之靈也

卷之二

詩合

八月二

題

閑庭林木

長精進忘

化者

左

賴輔

誰光

定宗

道清

仲宗曰

親威

定範

廣玄

仲遠

右

有房

六傳數

仲經

為度

州覓

中納言嚴

因備

辨收

脩後殿

義懷

文賢

判者

亮公顯祖

一束 因庭秋末

た

頼、浦

春の第子秋の初月かともやくもまちる津と分ふと

太

勝

有房

今みぬ誰のかえにゆは、秋の月が詠すほりし
石と共つやきく竹子たえハをとよ
りやく日づくらゆけし大父おじとぬと
よきくめ初りくよくがとをせうるあ
がはるうて大下おとすれゆきくや云厄
門とぞくよく休初りいひるうよせ
本まで波がりあひゆのくまが誰よせん

二束

た

雄光

草とけ入今人をうちに富とあ、かとくは能

勝

二修歎

松とけ入今人をうちに富とあ、かとくは能
金きん、瓦方、胡ご山さん也玉うるとこすわんわんとせき
三束さんといひて竹子とあとひく丁穴つばくあなと
いの秋風あきかぜいふくぐりとうくさきうかと
よやも、いきれどこのをひえ食くまへそ

まことに、大奇なる勝手を知る
うるわしき人

二
史

九
時

定宗

金秋十月之交，天高氣爽，萬物蕭疏。此時，農事已畢，閒居無事，偶得一念，便題於壁，以資消遣。

七

仲經

右ハ秋と冬と云ふ事は
何んだ晴^{アマ}天又たの音^{ヨウ}ト云ふ事
と等え乍^{アサ}く心^ハれてハ竹林秋^{アキ}公^ノと云
有り林^ノ音^ノうきく聲^ノあひ^{アヒ}トナリ

四
四

卷之三

蓮
元

さうかと併今下うきひでやとて而
せとたはれうれと見てゆきでゆく
ゆうすとくらむる有りてたまふく
四重
丸内
蓮元
道情
度

七

蓬生とすりを以てきや衰るゝあはにと
人相がれ流れたゞま萬もよしもそ
うのゆきひととおのやあれどもとくま
すりぬきよすうをれんぞくれむ

のうとゆる也 云々とひがく下
アラシキもあつておはすうといふ
せきくまこえり

又處

丸珍

宗円

まつしゆうりん我宿のひよりす秋、
か

州観

ま風辱をぬき氣ひに一葉とくちを脅ひ吹
苦はれく更乃ゆきうてあらすハぬを
のまひきやとつひあれ坐りしも今
すうたりあくよ一葉とうむともゆとも

アヒタウヒテス一葉散りとすより
知るは一葉のちらかとてのせくまゆる
えりくてゆく

陈林云一葉乍ア、朗詠集す立秋
題ヨリ裏處起立ル歌ト詩と造る
了サセ也其心充溢者殊日卯一葉起
歌次歌 又云丸珍ア、不逆々、不逆
云々と云々と云々と云々と云々と云々

一葉將も詠とアリてゆゆういて
アリ

たとて奥有らへり、右大膳も仰さん

六事

厄 時

親感

えんじゆきを秋の月にしきのをはひりしよ

太

中納言敏

吉とちく務つねをめよなきとちえのまひま
左のやハ竟、うりゆどもよなうす今ま
ひとしゆえひ、用の字はいとひに、傳聞
父のすまとのこと、前、とハヤヘミ、年も
用居よ、父、れと、や、は、接続、テ、リ、や
厄の時、又え厄、すうの年、年も

七事

厄 時

達 覧

のと、猶ほ、のと、
まうれの、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

七事

厄 時

因 情

ゑ、そ、せ、と、あ、れ、を、な、よ、株、の、若、い、爲、だ、せ、
か、れ、道、と、や、へ、一、ス、ス、た、の、可、て、の、が、よ、
ハ、金、や、ア、く、何、と、れ、う、し、人、と、仰、と、

八重

丸坊

彦言

甚寧く仰うるま、筋を絞る所をほめ、第より好んで

弁殿

あきらめ難い事は嘗てござりず、すばやく
そぞらうちたゞやうるゝや、えひなど、じ
そよぐゆく太へあきらめとけりむかゞ
仕事する用ひつあひてかよひとせぢちす
ヨリヒヤウ

九重

丸坊

仲遠

是と内蓮志能ひをめり、以てあハ秋の初夜

右

伴漫題

サ秋がまやくも古てよ人をまをせめ此力ま、
左さよまみ帰のううハ身あむる處
事よといひくくす、をれもとけりふま
うもくともとくす、をれもとけりふま
おかよかへきこ、又云丸久じじかくわ
しまよけり、左ハカ穂ひのねの力まと
まよけり、左ハカ穂ひのねの力まと

十重

丸坊

仲遠

テルもちを失ひてよもよて意とする殊に

左

義農園

見事の四字を考へて墨にたらこくしを好む
これぞやうと紹介するに及ばぬ秋の之
がふとす。さればもよゆのゆゆ
と様ともえんじゆやゑんじゆ。じる
とけられても又も難ぐれえは
うとあくじるべく

十一事

左

觀基

寒風正近くおけふあるまきをもく株は根に此

右

良賢

そぞうきすきよしひがませめりよぶくめく人
たがんともすましすくゆてゆく今よ候风
丁うとくをゆかる疾のうふはひゆのを
疾吹せるとして、とくとくてからゆの
一處より、ひよれて、すきひと近ふ
すきも疾きよぐよ、あはい、晴け下
そくすハカとえじて、中作ゆうて、是
ちのちくわくすへきせぬ下 陈
枝拾遺秋上 友原長能

又云厄虫アシカ名トシテ草す昆蟲也ト
門えしリモトニテアヌケルト秋
のえもシテモシテウタク作人 大父秋月
キナシナシトシテ久遠也 例也

一
忠長
義
通
遠

九
始

卷之三

立於此。是已身以爲火也。若以爲也。則有房。名火也。

27

たる所をすすめたりとくそをハ

中は仕事うちのうきとしまれ難よ
仕事はなむゆくよ

二重

たぢ 雜え

田舎者、とてやがれなうううううう

太

お隣風

ふくらへりのゑとほどの要うとよさらま
左 扇 稔のよだらうすにこのすのすにせ
是のひらは太のいぐり、ばらひらはせ
もじよひらはせとゆせとスルルスム
左をうそも計六角扇と云ふる

仰す大約とひきくらんとひく、後と
其のひきくらんとひくと食がて立するまで
えて仰、ひと足行かずよ遠せりと云ふ
らき兵きのふうと全くゆきとひくと云ふ
とひくあさりのち、じつ仰、うぬみを
不ふ下りて仰す

三重

た情

定宗

月見もよくてすぐせも潤のがるよき弓

弓

併せ

さうやまよ比佛ととせすきあはぬ故

在みよ乃ひのうすんねたれ小ど
しとひかはれぬちあんがた
じきうとうとくを合ひうるし
ゆうみえたおつきに長精まん
たまとすえゆくぬよ

写

瓦

通清

右

有度

よとよとよとよとよとよとよと
せむ、やくさまよひなあいきよ

あひゆてやぢよつゝぬ人アヒノアツアツの
うへ題アヒノいよとけやスモクシイ人アヒノ
トモリ今アヒノや行風アヒノハヤヒヤとスミタ等
十ニ萬アヒノ大アヒノヨウガ、蜀アヒノヒナミ等
逃アヒノハアアヒノミカツアヒノト作アヒノハ
テキアヒノは監アヒノて作アヒノんちアヒノあくくらけ
きもとアヒノめぐるととくアヒノて見え得アヒノ

写

瓦

家田

うすとすまやひまでアヒノモアヒタマ

右

井邑

を身につけたり西とうまるやうのでゑ、迄あひて
瓦斎がアリトハ作ぬ太陽傳へ一 みちは
瓦子をまかせしむる事ありきの歌の事、
やうやく思ひもどりてこのえうじにゆづま
せくはれたすとあふく作ぬよも
色とんと角いうちねどしかえくはれ瓦
庄より

を身に

瓦の

歌咸

紫川れ不おとせととひよとくよ
中幼言題

を身につけたり西とうまるやうのでゑ、迄あひて
瓦斎がアリトハ作ぬ太陽傳へ一 みちは
瓦子をまかせしむる事ありきの歌の事、
やうやく思ひもどりてこのえうじにゆづま
せくはれたすとあふく作ぬよも
色とんと角いうちねどしかえくはれ瓦
庄より

を身に

瓦の

歌咸

瓦斎がアリトハ作ぬ太陽傳へ一 みちは
瓦子をまかせしむる事ありきの歌の事、
やうやく思ひもどりてこのえうじにゆづま
せくはれたすとあふく作ぬよも
色とんと角いうちねどしかえくはれ瓦
庄より

瓦の

歌咸

たし立し井戸あまうをうらとるま
とおもひのひともつひと肩えゆふと
太はあちのまよ筋とすハたれすと
ねりすてゆくまちめりとくや
うりりんまひとす。いち、とある女
おとせ詠て竹はうりれやよのを
しゆけくよし太晴。スミたり
しまそうとありしるじきと不吉よ
くとさうれむ心うよあらむ石は
まきえよらはなみすとあ日暮今

せうれらまとあるよきと、ゆくよ
ゆきとまつづくの子れつるう
よいはゆゆたがすくわゆじ

八重

丸

廣言

木立はよ清てえとみせまで走はばよあひま
不時

年齢

まほりくわくは内をくぬ、ゆのちと
三年而日れす年すとすとる年もとも
も負ふれ、とくとくがゆよ又えた
在共よ見よ傳りすとし骨坂毛尼の

かまふのうくゆはか乃うふすうあめくよ
てハ竹瓦トアヒツテ竹瓦トシテ木瓦ト
瓦瓦セ一逃てヒテニえ作と右奇
了之出要とよりゆに前心よもい
てくく竹瓦うばうん

九蟲

た時

仲達

ちやく竹瓦の竹瓦の竹瓦の竹瓦の竹瓦

右

侍候殿

ひうまよもひなとせとぬと竹瓦てがにわを
右まらひくとくとくとくとくとくとくとく

ひのうくゆはくゆはくゆはくゆはくゆ
左あまやまくまくまくまくまくまくまく
三女がほえ作と右ひうま年下達する
左とくよとくよとくよとくよとくよとく
以竹瓦の竹瓦の竹瓦の竹瓦の竹瓦の竹瓦

十蟲

た時

仲頬

ひまくゆはくゆはくゆはくゆはくゆはくゆ

太

義農殿

き事そつこの内ナチナナナナナナナナナ
不ヌクとあくらまよ、うさうめし

士

基

あつましやといふとやうと仕方う
えをたすはれは行はすありて竹
ひのひやうひよる太我、つまう
とひよりやするたの晴や

十一

たお

祝基

いとすもあうてひとときまますにとめそやう
不

良賢

三とせまてぞくらかきよれよひのまと神徳
こひねとよみくわちあくさくゆく
アヒトの晴まをなづやも思ひに附

久(キモ)
人(ヒト)にてはひるとよくと定むせん
アヒトの晴まをなづやも思ひに附

